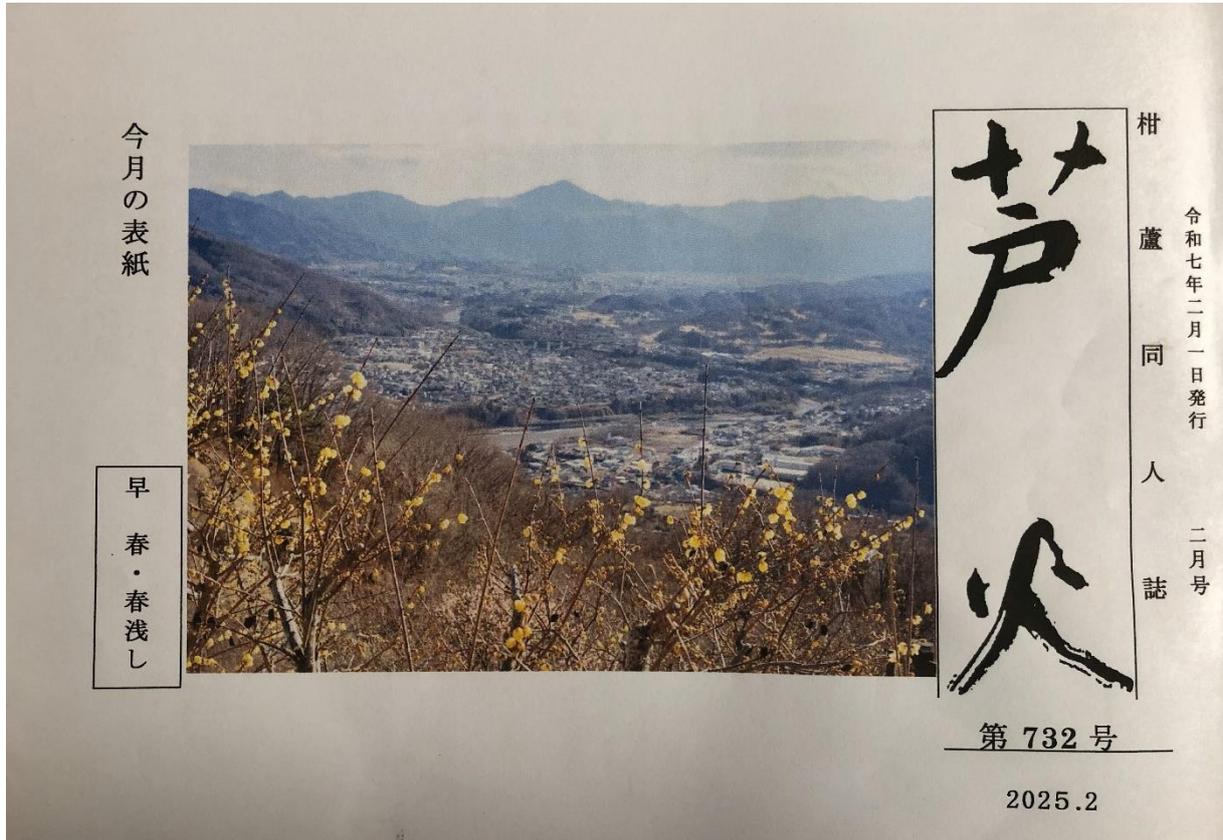


俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第732号（令和七年二月号）表紙

- ・初春の季語：「早春」 あるいは 「春浅し」
- ・来月号（三月号）の兼題



<季語「早春」：初春・時候>

- ・立春以降、二月末頃までが早春。一年でもっとも寒い時ともいえる。氷も張り雪も降る。それでいて、どことなく春の気配がのぞき始める。春浅しよりやや寒さが強い短い期間である。

「有名俳人の句」

早春や道の左右に潮満ちて	石田波郷
早春の山筐にある日の粗らさ	細見綾子
楽器函ほど早春の水車小屋	鷹羽狩行

<季語「春浅し」：初春・時候>

- ・早春とほぼ同じで春立ってまだ日が浅い頃。木の芽、草の芽も伸び出さぬ頃。早春よりはやわらかくやや情緒的な季語。

「有名俳人の句」

春浅く火酒したたらず紅茶かな	杉田久女
春浅し白兔地をとぶ夢の中	飯田龍太
春浅し日向薬師の藪の径	星野麦丘人

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された12名の84句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者(敬称略)>

20点 恵吾 13点 穂心・緑汀、11点 要、10点 温州

<高得点句(4点以上)>

- ・廃村の火の見櫓や風の音／恵吾・・・・・・・・・・7点
- ・寝落ちする至福の時や日向ぼこ／温州・・・・・・・・5点
- ・オルガンの古びた音色聖夜の夜／穂心・・・・・・・・4点
- ・煤逃げた若手落語の披露寄席／緑汀・・・・・・・・4点
- ・丹頂の求愛ダンス息白し／恵吾・・・・・・・・・・4点

☆その他のトピックス

① 安本緑汀様のご逝去されました。

・昨年12月29日、同人・安本緑汀様(安本純様)がご逝去されました。
享年92歳。大学3期卒。

長きにわたって「散歩道の自然～写真解説」を「芦火」に連載され楽しませて頂きました。最後の投稿は昨年12月号の「ストレリチア(和名:極楽鳥花)。

ご逝去直前まで俳句を嗜まれカメラを趣味とされていたと思います。

また、俳句の句風は伝統俳句に重きを置かれた正統派のイメージがあり、多くの名句を詠われていました。同時に穏やかなお人柄だった印象です。

来月号は「緑汀さんを偲ぶ」特集号になる予定です。

合掌

② 同人誌「芦火」の今後について

・先月号で「芦火」の今後について同人各位のご意見が出ましたが、これらの意見を踏まえて、次月分より以下の点を改訂します。

- 1) 出句は五句(内兼題は一句) (従来は七句(内兼題一句))
- 2) 選句は特選一句、平選六句 (従来は十句(内兼題一句))
- 3) 「切り捨て御免」に替えて「気になる句」のコーナーを設け、自由に意見を述べる事が出来るようにする。

.....

<先月号での各位のご意見>

・昭和38年(1963年)の結成以来60年以上の歴史を誇り、一時は二十名以上の同人がおられ、且つ、二年に一回の頻度で吟行が開催される等、活発な活動が行われてきた「芦火」も、高齢化進行とともに同人の減少に歯止めがかからなくなってきています。そこで、この度同人各位に「芦火」の今後をどうしたら良いか意見を聴取しました。様々なご意見がありましたが、概ね以下のご意見に集約されると思います。

- 1) 近々終刊したらどうかとの意見もあったが、何とか継続したい、継続するべきという意見が大勢。
- 2) 同人を経済学部OB・OGに限定せず、和歌山大学の全学部のOB・OG、教職員、現役学生に広げる。連れ合い、兄弟姉妹、いどこ、はどこ、遠縁にまで広げてはどうかとの意見もあった。
- 3) 年会費を安くする(現状1万2千円)

- 4) 通信句会ではなく月一回あるいは二か月に一回の出席句会とし欠席投句も可とする。年会費は欠席投句する人も出資する。
- 5) 出句数および選句数を減らす。
出句数（現状7句⇒3句以上5句以内に変更）
選句数（現状10句⇒7句に変更）
- 6) 現在中断している「切り捨て御免」のコーナーは、形を変えて継続する。
鑑賞することも俳句の勉強であるので、良い句は取り上げるとともに、「私だったらこうしたい」と思う句に感想を入れる形で継続する。コーナーの名称は別途検討。
- 7) 有季定型を理念としてきた「芦火」であるが、自由律句、破調句、現代俳句にも門戸を開く。

.....

③ 近況報告および通信

- 1) 新年のご挨拶および近況報告：善富さん、碧亥さん、要さん、草炎さん
- 2) 伊丹市の新春俳句大会にご参加：穂心さん

伊丹市は毎月19日を「一句」の日として広く俳句を募集し、近隣都市だけではなく広く京阪神からも俳句が寄せられるほど俳句の盛んな街のようです。

穂心さんは句会の会場設営等をお手伝いされているそうですが、訪れた日の句会は坪内稔典さんが選者をされていたそうです、流石な話術で句会は大いに盛り上がったとのこと。

因みに、伊丹は江戸中期の俳諧師・上島鬼貫（うへじま おにつら）の生誕地、文化勲章作家・田辺聖子さんの居住地（生誕は大阪市、2009年・81歳の時伊丹市の名誉市民に任命されています）

- ・拝殿の鈴尾振る子の初詣 穂心
- ・芝浜や吾も初夢を買いそびれ 穂心

④ 「2025年新年会開催（1月12日）」 温州

- ・温州が以下の随想文を掲載しました。

今年の新年会は1月12日に昨年同様大阪支部と共同で開催しました。会場は湊川神社・楠公会館、2階青雲の間です。

参加者は63名（神戸支部32名、大阪支部10名、その他支部9名、和歌山大学同窓会1名、柑芦会本部3名、大学教職員3名、現役学生5名）と多くの参加者で賑わいました。

幹事長の司会進行で始まった新年会は神戸支部支部長の挨拶に続き、幹事長より神戸支部、大阪支部を除く参加者21名をご紹介させて頂きました。そして、21名を代表して和歌山大学同窓会会長岡村周成様にご挨拶頂きました。

続いて和歌山大学の現役学生・硬式野球部およびラグビー部の代表者より新年の抱負を披露して頂きました。両チームともに、より高みを目指して日々練習されているとのことでしたが、我々OB・OGとしては、和歌山大学の名声を今以上に全国発信して頂けるよう大いに期待しているところです。

学生さんのプレゼンに続いては、恒例の和太鼓演奏です。和太鼓集団「ホッと太鼓」からお祝い太鼓三曲が披露されました。食事前のお腹に心地よく響いたものです。

5分間の休憩を挟んで、懇親会・会食の開始です。

冒頭、柑芦会会長垣見祐二様より乾杯のご発声を頂き、懇親会・会食がスタートしました。

卒業期が近い方々に同じテーブルに着席頂いていましたが、お互いのテーブルを歩き来しながら、先輩、後輩の垣根を越えて大いに歓談されていました。

その後13時30分頃よりデザートタイムがスタートしました。デザートタイムではフラメンコサークル「La Fuente (ラ フェンテ)」より華麗なフラメンコダンスをご披露頂きました。ライブでフラメンコを観劇することはめったにないことでもあり、約30分の間でしたが、一同華やかな演舞に見とれていたところです。

そして、宴たけなわの14時30分、なごり惜しくもお開きの時間となり、糸川大阪支部支部長のご発声で2025年の新年会は閉会となりました。



<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の11名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先;
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上
(文責：平林 温州)